



## 事業性評価研究所 セミナーのご案内

[テーマ]

# 農業における 事業性評価の必要性について

農林水産業では、ICT化の取り組みとともに技術的な研究は進みましたが、社会構造問題には手が付けられておらず、担い手の高齢化に伴う事業承継問題や金融需給のアンバランスは放置されています。

これらを解消するためには、これまでの財務諸表をベースにした定量的な評価手法ではなく、農林水産専門家が生産～流通～消費までを一気通貫で分析・評価する事業性評価書(事業リスク分析)により、事業経営としての投融資価値を明確化することが必要です。

本セミナーでは、事業性評価の動向や事業性評価書が目指すもの、農林水産分野における事業性評価の課題などについて解説いたします。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

開催日時

2018年5月28日(月)  
13:00～16:30(12:30開場)

参加費

3,000円(税込) ※当日会場にてお支払いください。

定員

200名

主催

株式会社 事業性評価研究所

共催

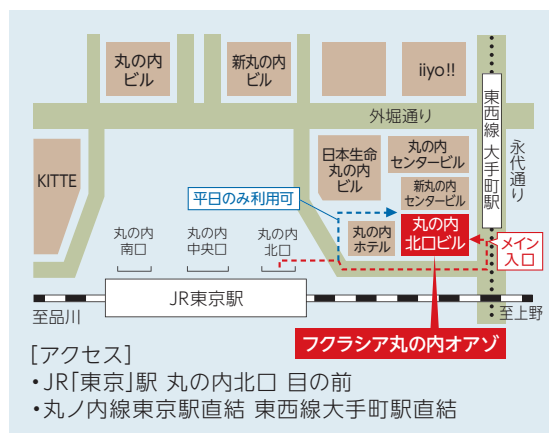
一般社団法人 ALFAE

予約制

※定員になり次第、締め切らせていただきます。

会場

東京大手町  
フクラシア丸の内オアゾ  
ホールA  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5  
丸の内北口ビルディング 16F



株式会社 事業性評価研究所

お申込み

TEL : 03-5213-9770 | 受付時間 9:00～17:00 [土・日・祝日除く]  
<http://www.bvr.co.jp/info/seminar20180528/>



# 農業における事業性評価の必要性について

## プログラム

### ◎はじめに

三重大学大学院生物資源学研究所  
教授

亀岡 孝治

[プロフィール]

[専門領域] 農業情報工学、食品化学工学、生物情報工学  
[現在の研究テーマ] 農業IoT、フードシステムのCPS  
食品・農作物のマルチ分光センシング  
食品・農産物の保蔵、調理科学

[学会活動] 農業情報学会副会長

[社会活動] 一般社団法人 ALFAE(アジア・太平洋「食・農・環境情報拠点」)代表理事(2007～)

### 「次世代の施設園芸とは」

施設園芸は成長産業として注目されています。特に環境制御施設の機能を活用して、栽培管理・労務問題、エネルギー問題を解決しつつ、高品質かつ高い水準の収量性を安定的に達成するための技術開発をご紹介します。

国立研究開発法人

農業・食品産業技術総合研究機構

野菜花き研究部門 野菜生産システム研究領域 施設生産ユニット長

(施設野菜実証プロジェクトリーダー)

次世代施設園芸地域展開促進事業・

次世代施設園芸検討専門委員会委員長

東出 忠桐

[プロフィール]

1992年より農林水産省野菜茶業試験場、農研機構近畿中国四国農業研究センターを経て、現職。

専門は施設野菜の生理生態学。

2007～2008年にはワーゲンゲンUR客員研究員として渡蘭。2010年に米国園芸学会よりOutstanding Vegetable Publication Awardを受賞。

主な編著書に「Tomatoes: Cultivation, Varieties and Nutrition (Nova Publishers, USA)」、「Solanum lycopersicum Production, biochemistry and health benefits (Nova Publishers, USA)」、「トマト オランダの多収技術と理論 - 100トンどりの秘密 (農文協)」、「環境制御のための植物生理 (農文協)」、「施設園芸・植物工場ハンドブック 日本施設園芸協会編」。

現代農業2017年1～12月連載「環境制御で作物はどう変化するのか」等。

### 「農業経営における農場管理の客観的評価」

財務的な経営マネジメントや気象や市場相場等の外部要因によるリスク対応ではなく、農場運営・実務の中で法令順守、および環境負荷、労働者健康危害、食品危害への対応を行う管理としてのGAPとその評価についてをご紹介します。

株式会社 AGIC

GAP普及部長

田上 隆多

[プロフィール]

2006年 農業情報コンサルティング株式会社入社  
(2007年株式会社AGICへ社名変更)

GAP指導、GAP研修業務、GAP認証コンサルティング等の業務に従事

2007年 JGAP審査員登録、審査業務開始(2011年まで)

2008年 JGAP上級審査員登録、審査業務開始(2011年まで)

2011年 GLOBALG.A.P.検査員登録、検査業務開始(2012年まで)

2012年 GH評価員登録、GH評価業務開始、GLOBALG.A.P.認証コンサルティング開始

2012年 一般社団法人日本生産者GAP協会 理事、事務局長に就任

### 「農業の事業性評価が産み出すインパクト」

農場で実際に使われている技術上の課題や改善点が不明確で、金融機関は融資による成長性を判断できないでいます。課題の見える化を通じて客観的で持続可能な事業性評価ができるようになります。

株式会社事業性評価研究所

専務取締役

田井 政晴

[プロフィール]

1993年 株式会社三友システムアプレイザル入社

2009年 取締役就任

不動産の鑑定評価業務・調査業務に従事、現在は建物調査から機械設備・動産評価までの資産評価を担当、金融機関の担保評価、事業再生支援、事業譲渡(M&A)における資産評価を手掛ける。米国鑑定士協会認定資産評価士

2013年 株式会社タス(不動産評価のクラウドサービス) 取締役就任

2017年 株式会社事業性評価研究所 専務取締役就任

## 株式会社事業性評価研究所 (Business Valuation Research Institute, Inc.)

代表取締役 井上明義

所在地: 〒102-0093 東京都千代田区平河町一丁目2番10号 平河町第一生命ビル

設立: 2017年12月1日

事業内容: ①農林水産業分野における事業性評価

②前号に付帯関連する一切の事業

資本金: 1,000万円(授權資本金3,000万円)

株主構成: 井上明義、三友システムアプレイザル

特許出願: 事業性評価システム及び事業性評価方法